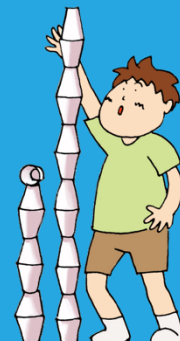


令和5年度

合同夏期ゼミナール



令和5年8月17日(木)10:15~12:30 岐阜県美術館

- (1) 受付(接続確認) 10:00~
- (2) 全体会1 10:15~10:35
- ①開会の言葉(会長)
 - ②新研究主題について(主務)
 - ③研究内容・方途について(研究部)
- (3) 分科会 10:45~12:00
- A: GIGAで「つなげる」ロイロノート等の活用(美術館:講堂)
講師 岐阜県美術館 教育普及係 課長補佐 後藤 正行様
- B: 見方や考え方で「つなげる」協調学習で いきいき鑑賞(図書館:研修室1)
講師 小田原短期大学 准教授 古田 啓一様
- C: もの・こと・ひとで「深める」造形遊び(美術館:多目的ホール)
講師 大垣市立興文小学校 教頭 山本真司様
- (4) 全体会2 12:10~12:30
- ④ご指導
- | | | |
|---------------|-----------|--------|
| 岐阜県教育委員会教育研修課 | 課長補佐兼第一係長 | 清水 也人様 |
| 可茂教育事務所学校教育係 | 充課長補佐 | 宮島 雅治様 |
| 飛騨教育事務所学校教育係 | 充指導主事 | 横山 大輔様 |
- ⑤閉会の言葉(会長)

<参加方法>

- ① 岐阜県美術館(岐阜市宇佐4-1-22)で現地参加
- ② Webexによるリモート会議(以下接続情報)

入室用ID: 2643 927 3567 パスコード: HSs7epwvD23

接続URL: <https://gedu.webex.com/gedu-jp/j.php?MTID=m624bf45ae201bc16b5776c70f02ee0ca>

・入室後は、ビデオ・マイクをOFFにしてください。発表等へのご意見・ご感想は、チャットにて受付いたします。

「つなげる」造形美術教育 ひと・くらし・ちから

～子どもたちも先生もつくって楽しい授業を目指して～

まず、前年度研究の成果である、「ひと・もの・ちから」との「つながり」を生かした研究実践を引き続き進め、図工・美術の取組が人や生活とのつながりを生み出し、よりよく生きることにもつながる学びであることを広めていくという姿勢は、継承していく。昨今の図工・美術教育の取り巻く状況を鑑みるに、美術免許をもつ教員数の減少、コロナ禍における教員間の学びの場が減ってしまったことで、これまで以上に県教育研究会の活動の意義は増してきている。前研究の成果として「教員のつながり」を広げ、BAND や岐阜・図工 NETでの情報共有が可能になった。小学校・中学校の教員だけでなく、大学、美術館、教育委員会など、図工・美術教育にかかわる多くの仲間がつながり、学びの輪を広げている。「ひと」のつながりを生かし、子どもたちへの授業づくりを更に充実させていきたい。

また社会においては、AI、情報化が進むにつれ、これまで以上に人が創造性を高め、物事の意味や価値を

生み出していくアートの位置付けは、重要性を増してきている。学校教育においても、真に「創造性」を育む図工・美術教育の必要性を追究し、他教科・領域との横断的な連携の中で、その意味や価値を位置付けていく必要がある。つまり図工・美術の学びの先に「くらし」が豊かに充実したものになるという実感を、主体的に生み出し、広めていくことが重要である。

さらには校種間、学年、題材、1時間の授業といった、系統的な流れの中で造形的な資質・能力、即ち「ちから」を高め、図画工作科及び美術科の目標を達成していきたい。教科書題材にあるように、明確な系統性の中で必要な指導を意図的につなげ、「ちから」の成長を実感できる授業を展開していくことも大切である。

このように、これまでの県研究で推進してきた「つながり」づくり、そしてその活用を、より意図的かつ主体的に進めていくことを目指し、「つなげる」という言葉に変えることにした。

この推進のために、サブタイトルの中に「子どもたちも先生も『つくって楽しい』』という言葉を入れた。子どもたちの「つくって楽しい」とは、岐阜県小図研・中美研がこれまで目指してきた図画工作・美術で学習する本質である「つくる喜び」を生み出す授業を引き続き進めていくことを示している。さらに先生の「つくって楽しい」とは、授業づくりを通して、図工美術にかかわる教師仲間と学び合うことや、文化や伝統、



教育関連施設などと連携を図りながら、主体的に教材研究を深める「楽しさ」を生み出すことを示している。また、

図工美術の専門外で指導にあたる先生や小学校の先生たちが、「どう教えるの?」「どのように評価するの?」といった困り感をもっている現状を、私たちが支え、「図工美術の授業って楽しい」と感じられる体制

を整えることも急務であると考えます。岐阜県小図研・中美研として県下の図画工作・美術にかかわる全ての人にとって有意義な活動を推進していきたい。

上に示した通り、「ひと くらし ちから」と造形美術教育を「つなげる」取組を進めていくために、まず、中学校では「デザイン・工芸分野」での指導研究を、小学校では、造形活動における発想する力や素材、場所、他者と関わる力を育む学習として「造形遊び」の指導研究を充実していきたい。また、「鑑賞の活動」についても、造形的な見方や考え方を働かせることや[共通事項]の指導に関わって、図工・美術の諸活動をつなぎ、育む大切な活動である。これらの指導研究を推進していく。



令和5年度 研究の方向について

研究部

1. 研究主題

2025 ぎふ・飛騨地区大会研究主題

「つなげる」造形美術教育 ひと・くらし・ちから

～子どもたちも先生もつくって楽しい授業を目指して～

ひとを「つなげる」

子ども同士の対話的な学び
教師同士の意見交流・指導体制づくり
地域人材によるより専門的な指導

くらしを「つなげる」

生活や社会との関連を生み出す
施設や産業との連携
学校と美術館・博物館との交流

子どもたちの
資質・能力が
深め広げられる

ちからを「つなげる」

資質・能力の系統性
題材同士の関連
他教科・他領域との関連

2. 研究内容

《研究内容1》

育みたい資質・能力を整理した題材づくり

- ①題材で育みたい資質・能力の明確化
・技能を働かせて表す活動・発想や構想する活動
・鑑賞する活動・共通事項
- ②「つなげる」ことを大切にした題材設定の工夫
・ひと（子ども，教師，人材など）
・くらし（生活や社会，文化，産業など）
・ちから（題材，系統，他教科など）

《研究内容2》

ひとりひとりの資質・能力が発揮できる授業づくり

- ①子どもの実態（発達段階や特性，作品に対する願い）を生かした指導の工夫
・学習環境づくり・資料提示の仕方・教師の言葉がけ
- ②学習の進め方の工夫（ICTの効果的な活用を含む）
・学習の必然性をもたせる導入
・発想や構想を膨らませる資料提示や交流
・意味や価値を実感する評価

《研究内容3》

子どもの資質・能力を育む指導体制づくり

- ①指導力向上のための教師同士の連携
・都市教研との連携 ・ SNSの活用・材料，用具，資料等の共有化
- ②身に付けた資質・能力を図画工作・美術の授業の枠を越えて生かす授業実践
・他教科・他領域との連携 ・ ICTを活用し遠方の学校や美術館・博物館との交流

【研究推進の重点①】・・・意図的に「つなげる」ことでどのような見方・考え方を育むのか明確にする
研究部ではこれまでも実践の中で様々な「ひと・くらし・ちから」と「つなげる」ことを大切にし，題材づくりを進めてきました。指導計画の中で，どの時間でどのように「つなげる」ことを大切にしたのか明らかにし，実践を進めていきます。ICTを利活用することも考えられます。

【研究推進の重点②】・・・「つなげる」ことを大切にして授業実践を工夫する

「A表現」「B鑑賞」の全ての活動をバランスよく指導するなかで，中学校では「デザイン・工芸分野」を中心に，目的意識・相手意識の明確な題材を「つなげる」という視点から捉えます。小学校では「造形遊び」を中心に場所や他者との関わりから，題材同士の関連だけでなく，身に付けた力が他教科・他領域で生かされていくのか研究していきます。また小中ともに，「B鑑賞」で育まれた造形的な見方や考え方についても「共通事項」の指導に関わらせて，教科内外の諸活動とのつながりを考えていきます。

もの・こと・ひと で「深まる」造形遊び

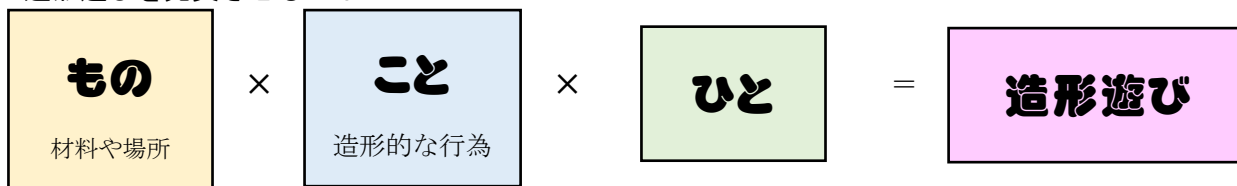
1 造形遊びとは

遊びのもつ能動的で創造的な特性を生かした造形活動（単なる遊びではない）

<造形遊びの過程>

- ・材料などに働きかける
- ・自分の感覚や行為を捉えた形や色などからイメージをもつ
- ・思いのままに発想や構想を繰り返し、技能を働かせてつくる

2 造形遊びを充実させるには

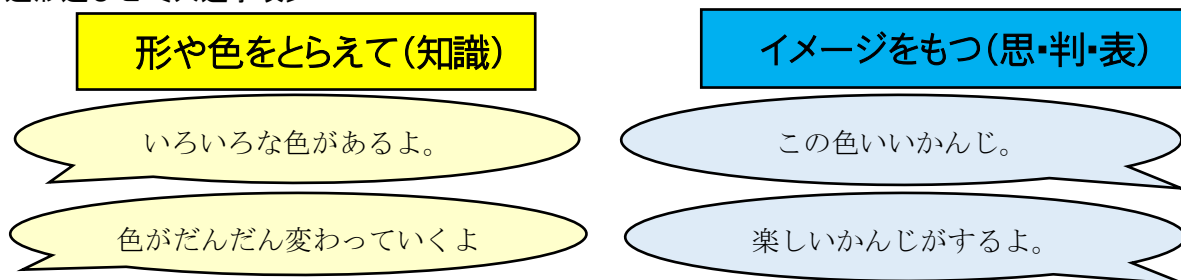


<例> 「カップ」 × 「ならべる」「つむ」
「洗濯ばさみ」 × 「ならべる」「つなげる」
「光・場所」 × 「色を重ねる」「美しい空間をつくる」

<題材の系統性>

低学年では、「〇〇をならべる」「〇〇をつなぐ」といった、シンプルな題材が多い。
だんだん、「材料+場所、空間」という要素が増えていくため、活動も「場所を生かしてつくる」「すてきな空間をつくる」という題材に変わっていく。

3 造形遊びと〔共通事項〕



4 造形遊びで身に付けさせたい「思考力・判断力・表現力」

- ・低学年・・・自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付くこと
- ・中学校・・・身近な材料や場所などを基に、造形的な活動を思い付くこと
- ・高学年・・・材料や場所、空間などの特徴を基に、造形的な活動を思い付くこと

5 造形遊びで身に付けさせたい「技能」

- ・低学年・・・並べたり、つないだり、積んだりするなど、手や体全体を働かせて活動を工夫する
- ・中学年・・・経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫する
- ・高学年・・・経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫する

令和5年度夏季ゼミナール

主な内容

- ・ロイノートSCHOOLでつなげる
- ・Keynoteでつなげる
- ・岐阜県美術館とつなげる



授業名(題材名): 伊藤若冲の世界	
学年: 中学1年	教科: 美術
指導要領: 「B鑑賞」	
授業者(学校名): 後藤正行(関市立桜ヶ丘中学校)	

展開3
第2時 前半

若冲の世界をオリジナル鑑賞

新たな表現方法の作品に出会い、若冲の顔に迫る。



1枚の作品を班内で共有し、鑑賞活動を行う。班間とは異なり、賞賛の項目がないため、どの部分から何とどう感じたいかを自分の判断で行っていく。使用する色を決めておくことで班内の誰がどのように感じているのかをリアルタイムで共有し、共感したり、新たな気づきを得たりしながら鑑賞する。

展開2
第1時 後半

仲間の見方や感じ方に触れる

他の班の発表を聞きながらクイズ形式で伊藤若冲の作品を鑑賞する。



グループ数以上の若冲の作品を準備し配布する。それぞれのグループで異なる作品を鑑賞しておくことで、その後のクイズ形式での鑑賞活動に移行する。出題側は決定的なヒントを出すことなく、自分達の見方や感じ方を伝えることで、徐々に選択できるようにする。ヒントが被らないように、共有ノート上で出すヒントに○をつけ、班内で共有しておく。

展開1
第1時 前半

伊藤若冲の世界に触れる

伊藤若冲の作品に出会い、色、形、感じなど自分の感性で感じる。



伊藤若冲の作品を鑑賞する。班の仲間と共有ノートを利用して鑑賞することで自分自身の見方や感じ方と比較しながら鑑賞する。

展開4
第2時 後半

若冲の世界をプレゼン

班内で作り上げた自分たちの伊藤若冲の世界をプレゼンテーションする。



班内で出た意見を集約し、伊藤若冲がどんな願いを込めて作品を作ったのか、どんな世界を表現しようとしていたのかをまとめる。まとめた自分たちの世界を学級で紹介することで、共通と違いを知り、より深い若冲の世界に触れる。

アートまるケット
あつちろいながわ美術館



6 造形遊びの展開・言葉かけ・評価

【準備】

- 材料は十分な量を準備する。
- 材料は、児童の導線を考えて配置する。
- 場所は、活動を考えて選ぶ。

【導入】「面白そう」「やってみたい」と思える出会い

- 材料との出合わせ方を工夫する。(材料にどんな特徴があるのか気づけるようにしてみましょう。)
- 「何をつくりたいか？」ではなく、「どんなこと(並べる・つなぐなど)ができそうか？」を聞く。
- 教師からの提示だけではなく、児童に活動させてみる。
- 「どんなよさや面白さ、美しさがあるかな?」「どんな感じがする?」と共通事項に関わる言葉かけをする。
- 「造形行為(並べる、つなぐ、積むなど)」のよさを実感できるようにする。

【展開】「〇〇できそうかな」「こっちのがいいかな」試行錯誤しながら楽しむ活動

- 「何をつくっているか?」ではなく、「どんなこと(並べる・つなぐ)などを考えながらつくったか?」を聞き、子どもの思考や表現の工夫を聞く。
- 「どんなよさや美しさがあるかな?」「どんな感じがする?」と共通事項に関わる言葉かけをする。
- 「並べ方が〇〇でいいね。」と児童の思考や表現の工夫を価値づける。

【振り返り】～造形的な見方・考え方を働かせて、過程をふりかえる～

- 「どんなこと考えながらつくったの?」と思考をふりかえる言葉かけをする。
- 「どんなよさや美しさがあるかな?」「どんな感じがする?」と共通事項に関わる言葉かけをする。

【ICTの活用】～作品に残らない過程を記録する～

- 活動の途中や最後にタブレット端末で写真をとる。(作品を写真で残せませし、過程をたどることもできます。)

【評価について】～目標・評価規準から、資質・能力が身についているかを評価する～

- 作品だけではなく、過程を評価する。つまり、何をつくったのかを評価するのではなく、どのようなにつくったのかを、身に付けさせたい資質・能力から評価する。(例:まるの形や色を基に、どのように並べるとよいかを考えている(思・判・表)、手や体全体を働かせて並べることができている(知・技))

7 造形遊びを考えてみましょう。



×



○願う子どもの姿を書いてみましょう

活動する姿

岐阜県内の小・中・特別支援学校の児童・生徒によるやきもの作品展



大地の こどもたち

2023

わたしたちのエネルギー



2023年

7月29日(日) ▶▶▶ 8月27日(日)

開館時間 | 10:00~18:00(入館は17:30まで)

休館日 | 月曜日

観覧無料

会場 岐阜県現代陶芸美術館 ギャラリー I

主催 岐阜県現代陶芸美術館 大地のこどもたち2023展開催委員会

共催 岐阜新聞社、岐阜放送

後援 岐阜県教育委員会 多治見市教育委員会 土岐市教育委員会
瑞浪市教育委員会 恵那市教育委員会 中津川市教育委員会 可児市教育委員会

助成 公益財団法人 田口福寿会

協賛 国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会 セラミックパレー協議会



岐阜県現代陶芸美術館
Museum of Modern Ceramic Art, Gifu

〒507-0801 岐阜県多治見市東町4-2-5 (セラミックパークMINO内) TEL 0572-28-3100 FAX 0572-28-3101
URL <https://www.cpm-gifu.jp/museum>

「大地のこどもたち2023展」
出品作品より

大地のこどもたち 2023



「大地のこどもたち」展は、こどもたちがつくったやきもの作品を、美術館で展示する展覧会です。2005年から3年ごとに開催され、今年で7回目を迎えます。

展覧会のテーマは、「わたしたちのエネルギー」。学校の教育活動や当館企画のワークショップでこどもたちが制作したエネルギーあふれるやきもの作品が、美術館の展示室に集合します。今回は、岐阜県内の小・中・特別支援学校のうちエントリーのあった全46校から、児童・生徒の皆さん約800名が参加します。

大地から生まれた土は、つくりたい気持ちと呼び起こす不思議な力のある素材です。手のなかで自由にかたちを変え、つくり手のありのままをあらわします。こどもたちは土と向き合い、楽しみ、試行錯誤しながら、自分だけのかたちをみつけます。それを焼成し、出来上がった作品は、まさしくこどもたちのエネルギーの結晶です。どれひとつとして同じものがない作品には、こどもたちの思いや、彼・彼女らがつくりながら感じたのしき、よろこびがあふれているようです。

7回目となる今展では、これまでの「大地のこどもたち」展審査員や、陶芸教育に関わる作家の作品もあわせて展示し、やきものと教育の関係についてもより広くご紹介します。

展示室に並ぶ作品から、こどもたちの思いやよろこび、いきいきとしたエネルギーを感じてください。こどもたちの輝き、その豊かな感性にふれる場となれば幸いです。



【大地のこどもたち2020展】出品作品 / 展示風景

関連企画

記念講演会 「多様化する社会での教育」

7/30(日) 11:00-12:30

講師：伊村俊見氏(陶芸家・本展審査委員長)
会場：岐阜県現代陶芸美術館
プロジェクトルーム
参加無料・要事前申込(フォーム)
【申込受付中】

ワークショップ「ねんどの広場」

8/19(土) 14:00-15:30

会場：セラミックパークMINO カスケード広場
対象：5歳以上(小学3年生以下は要保護者同伴)
定員：20名
参加無料・要事前申込(フォーム・電話)
【受付開始：7月8日(土) 10:00~】

*各イベントの詳細については、当館ホームページをご覧ください。

イベント申込方法

WEBサイトの専用フォームまたは電話にてお申込みください。

WEBサイト(フォーム) www.cpm-gifu.jp/museum/learn/event

電話 0572-28-3100

*イベントによって申込方法が異なりますのでご注意ください。



同時開催(ギャラリーII)

5月16日(火) - 8月27日(日)

豊場惺也展 - うつわを愉しむ/コレクション・ハイライト

岐阜県現代陶芸美術館
Museum of Modern Ceramic Art, Gifu

〒507-0801 岐阜県多治見市東町4-2-5(セラミックパークMINO内)

TEL 0572-28-3100 FAX 0572-28-3101

WEB <https://www.cpm-gifu.jp/museum>

Twitter [@gpmomca](https://twitter.com/gpmomca)

Facebook <https://www.facebook.com/cpm.gifu.museum/>

Instagram <https://www.instagram.com/momca.gifu.museum>

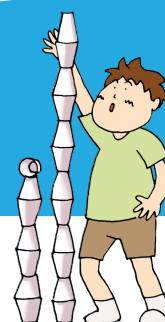
最新情報はHPを
ご覧ください!



- 東京・大阪方面 → 名古屋駅でJR中央本線に乗り換え
- 【多治見駅から】
- タクシー 約10分
 - 多治見市コミュニティバス(ききょうバス) ※土日祝日のみ運行
【オリベ観光ルート】乗車約20分 → 「セラミックパークMINO」下車
 - 東鉄バス「瑞浪駅前」行き、「東木上郷」行き、「駄知」行き 乗車約15分 → 「セラパーク・現代陶芸美術館」下車 → 徒歩約10分
- 東京方面・東名高速 → 豊田JCT経由、新東名高速 → 豊田東JCT経由
- 富山方面・東海北陸自動車道 → 美濃関JCT経由
- 長野方面・中央自動車道 → 土岐JCT経由
【東海環状自動車道】土岐南多治見ICから約5分
- 大阪方面・名神高速 → 小牧JCT経由
【中央自動車道】多治見ICから国道19号を土岐・中津川方面に約10分 → 東町1の交差点を右折

「つながり」で 図画工作・美術の 楽しい授業づくり

みんなで行っていきませんか？



岐阜県教育研究会 小学校図画工作科・中学校美術科部よりお知らせ

BAND グループ「岐阜県図画工作・美術研究部会」

アプリ「BAND」は、連絡、スケジュール、紹介、ファイルの共有など、さまざまな機能が充実しています。グルーピングも可能で、各地区の活動を補助しながら、全体の流れも見られるように運営していきます。



登録はQRコードから。「学校名 名前」で登録 いただくようお願いします↑

岐阜図工・美術 NET

岐阜の図画工作と美術を考える
岐阜図工・美術 NET

BAND グループ内での活動内容やお知らせなどを整理し、県外機関等、外部向けの情報をまとめる Web サイトとして正式に発足いたしました。指導計画の例や各地区実践、資料の配付等もこちらで行います。ぜひ「お気に入り(ブックマーク)」してください。



<https://gifu-zukou.net>